

桂川っ子



不足を満足に

桂川町教育委員会

教育長 佐谷 千香子

小学生を対象とした「リーダーキャン

プ」(桂川町子ども会指導者連絡協議会主催)が6月28日・29日、桂川町湯の浦総合キャンプ場で実施されましたので、私も参加させていただきました。あいにくの雨でしたが、雨に打たれる紫陽花(あじさい)がひとときわ美しく緑に映えていました。

ゲームや携帯電話も禁止。それにテレビもない。子どもたちは自由時間をどのように過ごすのだろうと、そつと見守っていたら、遊び道具がなくてもなんのその、お互いが創意工夫し、学年の枠を超え本当に楽しそうに遊んでいました。

一泊二日の日程でしたが、子どもたちは、不自由な生活を体験することで創造力を伸ばし、協力し合う事の大切さを学び、友情を育みました。指導者の皆様お疲れ様でした。

十八世紀後半の思想家ルソーの言葉に「子どもを不幸にする一番確実な方法は、いつでも何でも手に入れられるようにしてやること」というのが有ります。

子どもたちに「不足」を感じとらせ、創意工夫させる事はとても大切なことです。ゲームがないと遊べない。テレビが友達。携帯電話生活。どれも利便性を追求した大人の負の遺産といえるのではないのでしょうか？

子どもたちは、自分の足を大地にしつかりとつけ、自分の頭で考え、自分の手でつかみ取る能力を秘めています。周りの大人は子どもの成長に合わせ、適切なアドバイスをすることによって、子どもに自主性を持たせる努力を惜しまないようになりたいものです。

「あなたならどうする？」
「あなたならどうしたい？」
「あなたならどうしてほしい？」
と、考えさせましょう。

【訂正とお詫び】

広報けいせん9月号の15ページ「教育情報 桂川っ子」において、掲載者氏名に誤りがありましたので、次のとおり訂正し、お詫びいたします。

(誤) 武本義春様

(正) 武本義治様

「豊かな心を育むために」

桂川中学校校長 山本和生

「豊かな心」をもち、自らの生き方をよくよく導くことができる生徒の育成」これは、桂川中学校の学校教育目標です。本校では、「豊かな心」を、他人を思いやる心や社会貢献の精神、生命を大切にし人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、他者とともに生きる心、自立心や責任感など、豊かな人間性をなす要素のことであると捉えています。

その豊かな心を育むために、特に、道徳教育、体験活動、人間関係づくりの充実と、規範意識の醸成(じょうせい)に重点をおいています。道徳教育では、道徳の時間の内容等を体験活動や日常生活などに関連させながら道徳的な価値の自覚が一層図られる工夫をしています。体験活動では、体育会などの学校行事や職場体験学習、保育実習、宿泊合宿など様々な体験を通して、充実感・達成感などを味わうとともに、社会的自立を図ろうとしています。また、対人関係能力を高め、規範意識を醸成することで、社会性の育成につなげようとしています。

8・9月に実施した2年生の職場体験学習は、キャリア教育などといった目的とともに、豊かな心を育成するために行っています。このように学校教育では、様々なねらいを持って、教育活動が行われています。しかし、例えば豊かな心を育むことは、学校だけでできるものではありません。家庭や地域の皆さんとの総合的な子どもたちへのかかわりによって、子どもは育っていくものだと考えています。同じ方向性を持って、それぞれの立場でやらなければならぬことをやるのが大切です。



▲ 桂川中学2年生・職場体験学習風景 山小屋ラーメン穂波店(飯塚市)にて